

噴火浅根の火山活動解説資料（令和4年8月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

今期間、気象衛星ひまわりでは噴火は認められていません。

引き続き、噴火浅根の周辺海域では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やペースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。また、噴火による浮遊物（軽石等）に注意が必要です。

令和4年3月27日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。その後警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況（図2）

今期間、気象衛星ひまわりの観測では、噴火は確認されていません。23日に海上保安庁が実施した上空からの観測結果（速報）によると、噴火浅根に変色水等の特異事象は認められませんでした。

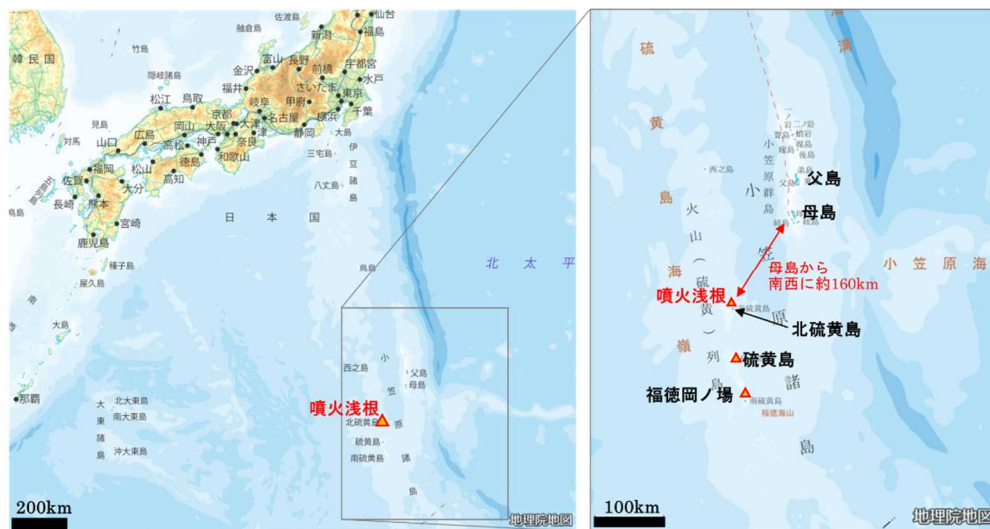


図1 噴火浅根 位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

2022年8月23日
海上保安庁提供

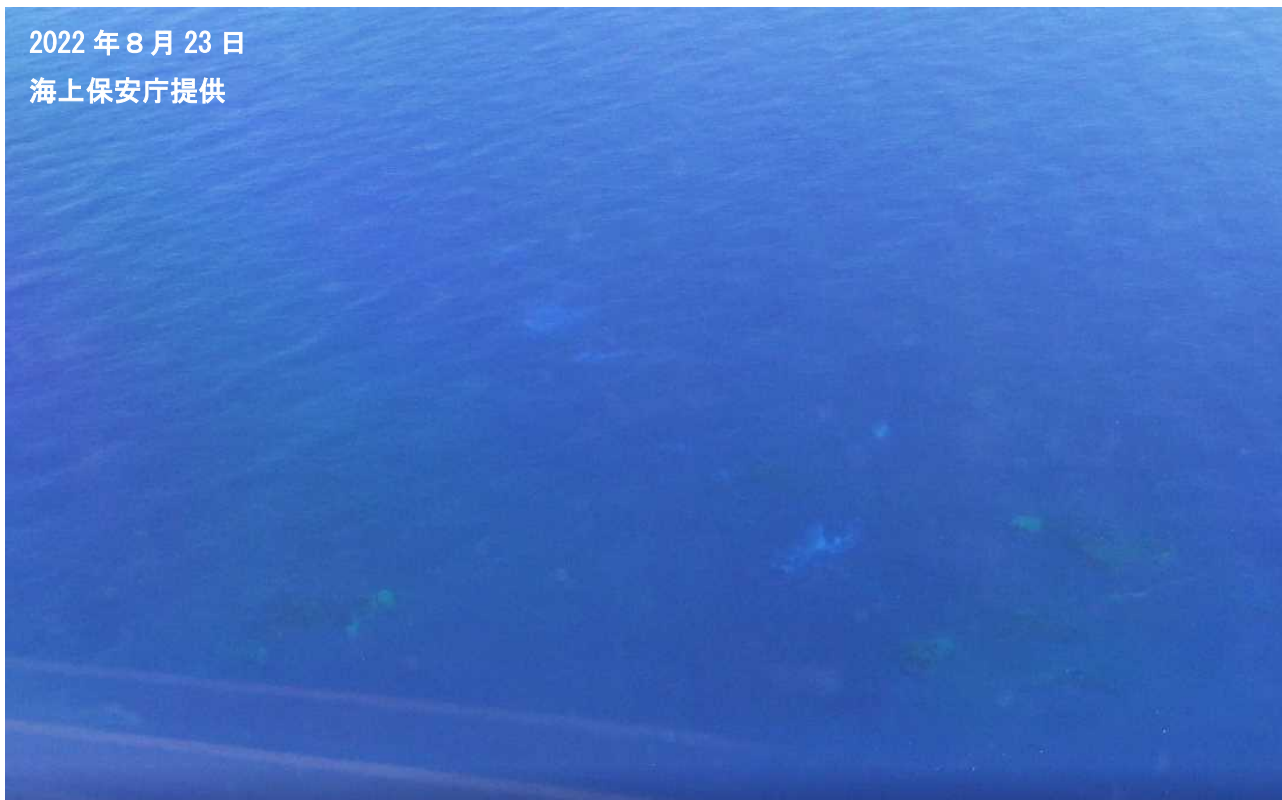


図2 噴火浅根 23日の状況

・23日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、変色水等の目立った特異事象は認められませんでした。

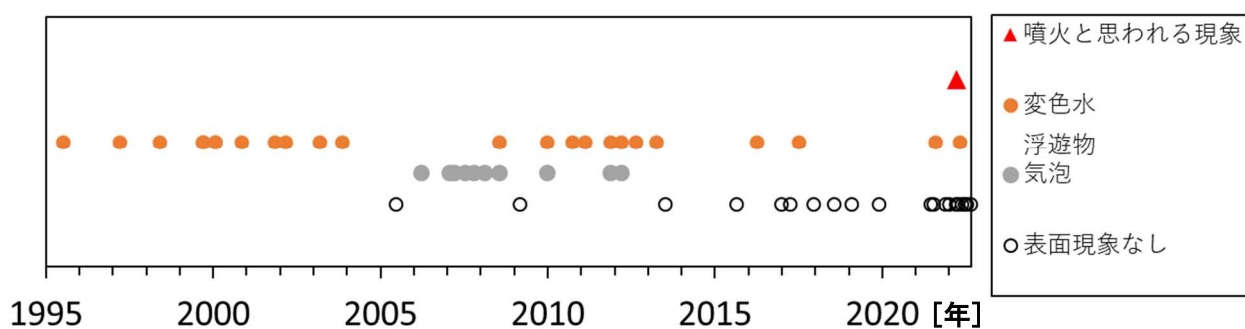


図3 噴火浅根 1995年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火と思われる現象（気象衛星ひまわりによる観測）、●は変色水及び浮遊物の分布が認められた観測、●は気泡の湧出が認められた観測、○は変色水等を含め特段の表面現象が認められなかった観測を示します。

海上保安庁及び海上自衛隊の観測による。

- ・噴火浅根の噴火は、1930年から1945年にかけての噴火以来です。
- ・噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。
- ・最近では2022年4月18日に海上保安庁が実施した上空からの観測で、少量の茶褐色の浮遊物が認められました。

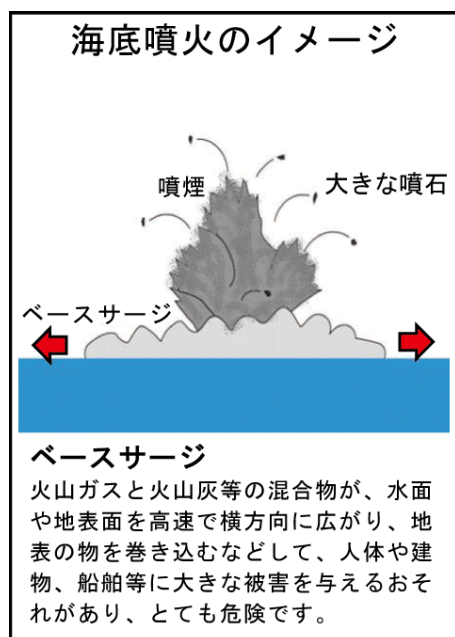


図4 海底噴火による影響のイメージ